

「なます」を迎えて

防災学習会を開催

八幡学区まちづくり防災学習会が11月16日、「たかしま災害支援ボランティアネットワーク」から3名の講師を迎えて「いざというときのサバイバル」というタイトルで開催されました。昨年の「なます」を招いての学習会が好評であったことから、今年も安全安心部会と人権部会が共同で企画したもので、90名近い部会関係者と自治会関係者の参加を得ることができました。



今回は、「なます」と子どもたちとのキャンプ生活における体験話やクイズ形式の問い掛けなどによって基本的な防災についての学習をした後、避難生活において自分たちの身の回りにも活用できる方法を学びました。多目的室に

並べられた椅子を全部片隅に寄せて全員が床に座り込み、3グループに分かれて3名の講師の指導により古新聞を使って防寒頭巾・スリッパ・マスク・簡易トイレを作りしました。だれもが真剣な眼差しで教えられたとおりに古新聞を折って、出来栄の良し悪しは人それぞれではありますが、とにかく全員無難に作り上げ、今後の参考資料として家へ持って帰りました。この他にも、古新聞を水に浸した後おにぎりのようにボールを作り乾燥させると、燃料として使えることも学びました。

防災学習会に参加して

いつどこで起こるか分からない自然災害、“明日は我が身”との思いで防災学習会に参加しました。「ボランティアネットワークなます」の女性が大きな声で熱心に防災・減災の話をする姿がとても印象的でした。子どもたちの夏休みに、山中でサバイバルキャンプをされた時の話は文明の利器に頼る私たち大人にとっても大変参考になりました。

後半は、新聞紙を用いた防災グッズの作り方を教えていただきました。避難生活ではどれも欠かせないものばかりです。参加されたみなさんは一心不乱に作っておられましたが、どこか楽しそうでもありました。習っておけば、いざという時に役立つと思います。

最後に、アルプス一万尺の替え歌を全員で歌いました。防災意識が一段と高まり、参加者が団結した瞬間でした。短時間でしたが、楽しく学べて、良い経験をさせていただくことができました。

最後に、小・中学生とともに、地域の中で大人がしっかりと見守っていただく必要があるというところで反省会の幕が閉められました。



古新聞を使って作り上げた災害時緊急用品：防寒頭巾、マスク、スリッパ、トイレ

青少年地区懇の反省会

各自治会で開催された青少年地区懇談会の反省会が9月29日、小・中学校の生徒指導の先生を迎え、あいさつ運動をテーマに実施されました。

各自治会の子どもの数の多い少ないによって3つのグループに分かれ、各地区懇談会での内容をもとに討議が行われました。共通して言えることは、学年が高くなるにつれ、

なるにつれあいさつの声が小さくなることや近所づきあいの希薄化が問題点として挙げられました。

人が人としてつきあっている中であいさつは非常に重要であり、スポーツや地域での活動に積極的に参加することで社会の中で通じるつきあい方を覚え、あいさつも自然と身につくのではないかとこの意見が出ました。

又、小学生では不審者という言葉の理解度に差があることや、中学生では犯罪に巻き込まれるケースもあると言われているスマホの所持率が55%というアンケート結果が出ているが、実際にはもう少し高いのではとの意見がありました。

自治会防災活動報告

かまどベンチのあたたかさ

11月13日4区自治会第5回防災訓練が為心町公園で開催されました。

消防署指導による救命講習、八幡分団による消防車学習と記念撮影、防災会保有の資機材披露、〇×方式の防災クイズ、そしてかまどベンチによるトン汁の炊き出しを行いました。

約60名の参加者のもと、今年も住民同士の交流を図ることができました。



消防署員から説明を受ける参加者

自助があって共助が成り立つ

14区自治会では11月27日、大規模防災講習会を開催し、ビデオ研修を行った後、昨年ワークショップ形式で実施された防災研修会でのワークシート調査の集計結果に対して5名のパネリストとコーディネーター計6名でパネルディスカッションが行われました。

この中で、特に「自助」と「共助」の関係が論点の中心となり、完全な正解というわけではないが、「自助」ができてこそ「共助」ができるというところで落ち着いたようで、「共助」に欠かすことができない要件に「日ごろの近所づきあい」が挙げられました。この他にも、「避難」と「防災会のあり方」などについても言及され、『安全があってこそ安心があり、安心があって安全があるのではない』というコーディネーターの言葉で締められました。



白熱するパネルディスカッション

非常食完全普及を目指して

11月第三日曜日を「八区防災の日」と定め、毎年防災訓練を実施します。先ず一丁目から五丁目の町内ごとに第一次避難場所に集合して安否確認し、情報は防災会本部に伝達され、負傷者は担架や車椅子でメイン会場まで搬送されます。

今年は、11月20日に100名程度が参加して、各種の訓練・体験・展示などが行われました。その中で、八区自治防災会が各家庭における非常食の普及活動を始めてから5年近くになることから、非常食の保存可能期限に近づいているため、非常食の買い替えの斡旋と新規備蓄を啓発することを今年のテーマとしました。今後とも、備蓄率の向上を目指して防災活動を続けます。



非常食現品と予約注文書

土嚢作り・土嚢積み体験

11月6日、多賀町(16区)防災会では、第5回防災フェスティバルを開催しました。まず、水害を想定した避難訓練を実施し、続いて各種訓練を実施しました。

各種訓練では、心肺蘇生訓練、消火訓練の他、初の試みとして「土のう積み」の体験コーナーを設け、袋詰めの際の土の量や土のうの積み重ね方を専門家の指導で参加者に体験していただきました。備蓄食料や簡易トイレの展示、カレーライス炊き出しなど、多くの方の協力により実施できましたが、参加者数の伸び悩みが今後の課題です。



土のう作り